



郵便  
**報知新聞**  
 第百七十一号

武州足立郡下加茂官村の農白石嘉吉  
 の妻の名をさめと呼六年で未連添て  
 中睦敷暮せしがさの姪もぬ九ヶ崎村  
 金子次次郎の娘みく時折泊りて仕事  
 手傳ひしておしるのつう夫嘉吉と誤  
 りる中と多じくさきのの姉き限り多く  
 或日もあま迫りて語り責めみひさる  
 託入り以後思ひ前とせ替はしつ道計  
 の思ひさし色ぬ物と名へ又も目先まうは  
 るさきのの益々念一や一日夫婦諸俱ま  
 熱柿を食し機嫌よく語り戯也か  
 さのへ平生の妬心怒発し柿剥小刀をま  
 の腰骨と刺さる鮮血出て止らぬ早余  
 日と経て外病よく死しつらさる  
 徳後五年は慶せんとしと



大徳  
 芳  
 眼

彫工銀

全庄寶五堂

